

抜き打ち調査実施報告書

法人名	社会福祉法人「生活クラブ」
施設名	生活クラブ風の村 特養ホーム 八街
実施日 年 月 日 時 間	開始 2016年 8月 16日 (火) 0時 44分 終了 2016年 8月 16日 (火) 8時 00分
評価者名	是枝祥子 本間郁子

※結果（運営基準の順守）

抜き打ち調査 の職員の対応	0:44 にインターフォンを押すと宿直の職員が丁寧にきちんとした対応で、玄関の鍵を開けた。調査実施書を読み上げ手渡した。荷物を置く場所を案内してくれ、その後、抜き打ち調査を開始した。
------------------	---

夜勤者数	6名 (運営基準は6名。重要事項説明書通り)
拘束の有無	全居室（自室から鍵をかけている人以外）を確認した結果、拘束は無し。現在、車椅子などを含め日中でも拘束は全く無いことを夜勤者に確認。
プライバシーの確保	全居室はドアが閉まっており、プライバシーが守られ、排泄介助も適切であった。
不適切な対応	無し。夜間、ほとんどの方が安心して休まれている様子を伺うことができた。夜間の排泄介助を含め、コール対応もていねいな言葉使い、その人のペースに合わせてゆっくりとした誘導を行っていた。すべてにおいて敬意をもった対応で、不適切な状況は全く見受けられなかった。

【特記】

宿直者は、玄関を開けて丁寧に対応してくれた。宿直者は、少し驚いた様子だったが、すぐに「ありがとうございます」と言い、まだ、寝ていなかったのですかと聞くと「何があるかわからないので宿直のときはあまり寝ません。」と答えた。

夜勤の職員1人に「生活クラブ風の村特養ホーム八街の理念」を尋ねるとよどみなくスラスラと言うことができた。夜勤体制は12ユニットで6人配置しており、コンプライアンスは守られていた。

居室やトイレの臭いは、ほぼなかった。前回、新町の入居者で認知症の混乱期で居室が尿臭で床が変色している状態で職員に聞くと対応に試行錯誤しながらやっているがなかなか落ち着かないと苦慮していたが、今回、尿臭を消す消臭剤を使ったりしながら、認知症の専門医に見てもらい、ケアのタイミングも少しずつ合うようになって、落ち着いてきている。との説明を受けた。

そのような状態の人を何とか落ち着いた生活に戻れるように、職員みんなで検討し支援する考え方を強くもち、決して諦めず、風の村で生活してもらえよう忍耐強く向き合っていこうとする姿勢がある。

新町の入居者でアルツハイマー病の症状があり感情が激しく、職員も神経をつかいながら対応している女性が、今回は、夜間、早朝とも起きてこなくて静かに休まれていた。職員に聞くと、認知症の医師の適切な治療がすばらしく効果があり、それに職員がしっかりと対応することで落ち着いてきたとのこと。長年、そのような症状と向かい合ってきた職員の姿勢とプロ意識に敬意を表したい。研究テーマにもなるケアの質の事例である。

居住環境に関しては、人手不足のなか、一生懸命、緑を絶やさずに季節感を出そうとする姿勢が見受けられた。夏は花の保ちが良くないなかでも手入れが行き届いていた。しかし、やや玄関の辺りが寂しい感じは見受けられるユニットもあった。

本町の浴室（個浴）の入り口にのれんが掛かっておらず、車椅子や洗濯物が置かれているのが廊下から見えて雑然とした印象を受けた。（のれんは洗濯中か？）

夜勤の職員に今困っていることは何かと聞くと、人手不足だとのことで、夏休みも取れるようにするためには、一人で無理な出勤回数であったりしているが、職員と協力して時間を調整しているとのこと。現在、仕事している人が疲弊しないための対策は急務である。と話していた。

6時ごろ、新町のユニットでピアノ曲が流れていた。食堂に一人の男性が何か雑誌をめくりながら穏やかに平和な時間を過ごしているようすが見られた。

本町では5時10分ごろ、早起きの男性が車椅子で散歩したあと、タバコに火をつけてもらっていた。穏やかななんともいえない自分の時間を楽しんでいるように見えた。

朝7時30分ごろ、家族の方（入居者の夫）が訪ねてきた。いつもこんな時間には来ているという。ご家族は「今日は台風が来るというので早めに帰る」と職員に話しかけていた。職員はとても丁寧に対応していた。

評価者からは、全体的にサービスの質の水準は保持されており、職員の責務に対する意識は高い。居住環境にも季節が感じられる雰囲気があった。

夜間のケアにおいては、コール対応に職員は丁寧にゆっくりと本人にわかるように話しており、排泄誘導もゆっくりゆっくりその人のペースに合わせて対応していた。丁寧な援助の継続の上に、利用者の生活の安定につながっていることが良く分かるケアであった。

今日の夜間帯は穏やかに特に大変な状態はありませんと職員は話していた。ただ、人手不足については厳しく、その対策をどう法人本部が検討しているのか見えない。ただ、職員募集するだけでは積極的な解決ではないのではないかと話していた。

ショートステイは、良いケアをしているのに空いている居室があるのは社会的にももったいない。新町に10室、本町に7室あるが分散しており、特養ホームにとっても、また、ショートステイの職員にとっても動線が長く、サービスの質を高めるために情報共有やリスク管理という観点からも効率的ではないと思われる。職員の負担感を軽減するという点においても、本町に一極集中させることなどを検討するなど見直しが必要ではないか。

また、人手不足の解決のためには現状の体制の見直しも必要で、できるところから改善を図っていくことが求められる。会議に時間がかかりすぎていることや人員不足の中で兼務があり、職員は最低限のやらなければならないことだけでゆとりがない。楽しいこととして利用者が喜ぶ表情を見る事で職員はやりがいを感じるがそれがだんだん減ってきていて疲労感がある。との意見から業務のあり方の見直しも検討の必要があるのではないかと思われる。

今回の夜勤者も誠実で人としてのやさしさと温かさが感じられる対応が多く
の場面で見受けられた。職員に心から敬意を表したい。家族も安心するでし
ょう。